

# 四面楚歌、首相の勝負どころ

朝日 2010年4月21日



## ザ・コラム The column

外岡 秀俊 (編集委員)

風が吹く。視界がひらけ、眼下に一面の海が広がる。透明な水をたたえる遠浅の向こうには、エメラルドグリーンの内海。その先に群青の沖が続く。

石灰岩の石積みで知られる沖縄本島中部の勝連城跡。小高い丘から見おろす海は、先月、普天間基地の移設先の一つと報じられた水域だ。

東海岸の勝連沖に浮かぶ浜比嘉島の東を埋め立て、巨大な人工島を造る。普天間のヘリ部隊を鹿児島県の徳之島や、沖縄県名護市のキャンプ・シュワブ陸上部に暫定的に移し、将来はその人工島に多くの基地を集約するという案だ。

その「勝連案」が報じられてから、地元では、さまざまなものよ

### 普天間移設

うに不安や疑念が広がる。

「土木業者の利益誘導に乗せられ、地元の意向も問わずに図面をかく。あんまりだ」

予定水域のすぐ目の前で民宿を営む浜比嘉島の区長、平識勇氏(63)は憤る。沖合は県内有数のモズクの産地。水が澄んで栄養価も高く、タコやウニがよく取れる。しかもこの島は、沖縄の創世神が住んだと伝えられる聖地の一つだ。

先月、基地計画に反対する市民協議会をつくった崎原盛秀事務局長(76)はこういう。

「沖縄は海の恵みで生きている。沖縄戦で本島中部の県民は、日本軍が駐留していないこの島に逃れ、漁師が取ってきた魚を分かち合って生き延びた。今も、多くの人々が副業で、海藻やタコを取って生活の糧にし

ている。いつも弱い方、弱い方へと基地を押しつけるこんなやり方が、許されるだろうか」

いま沖縄では、今月25日に開かれる県民大会に関心が高まっている。超党派で「県外・国外移設」を訴える大会では、多くの自治体の首長が実行委員長を務める。

「勝連案」の地元・うるま市の島袋俊夫市長もその一人だ。「政府からの接触、打診、説明は一切ない。勝連案を断念したとの報道もあるが、出どころが定かでない、気が抜けない」

自公政権が進めた辺野古への移設に反対し、今年1月に当選した稲嶺進名護市長も、15日、実行委員会を作った。地元への打診はまったくなくという。

「名護市は海も陸も、基地を受け入れない。与党は、県民の総意が『最低でも県外』にあると知っているはず。しっかりその根拠に立てば、名護に戻るなどという話にはならない」

昨年の政権交代で、沖縄では

「県外移設」への期待が急速に高まった。閣僚がばらばらに

「県内移設」や「現行案」に言及したが、鳩山由紀夫首相は「沖縄の負担軽減」を唱え、先月末の党首討論では「腹案」があると言いつつ、「5月末決着」を約束した。しかし断片的に報じられる県内移設案がその「腹案」だとしたら、沖縄ではどう受け入れられないだろう。

「鳩山首相は『最低でも県外』とやってきた。沖縄の基地を縮小する。今ある施設を使う。金を出しても国外に出す。その組み合わせしかない。もし県内移設だったら、内閣打倒の声があがる」と民主党沖縄県連代表の喜納昌吉参院議員はいう。

鳩山首相は、どこでボタンを掛け違えたのだろうか。

1997年末に名護市長が移設受け入れを表明した際、橋本龍太郎首相の補佐官として地元

を説得した岡本行夫氏はいう。「当時は数カ月、地元に入って酒を酌み交わし、人々と語り合った。当時の防衛施設庁の人々も、一升瓶を提げて地べたをはって説得した。基地問題は、地元・米側と対話し、双方のすり合わせをするのが基本だ。『政治主導』をいうのはいいが、役人を使って必死に動く努力を怠っているのではないか」

橋本首相と17回会談し、個人的な信頼関係を築いた大田昌秀元知事はこういう。

「勝連案は過去に検討し、実現不能とわかった。シュワブ陸上部も過去に米軍が拒否した。本当にこの13年から学んだのだろうか。もし政府と沖縄が信頼しあえなければ、沖縄人と米軍が直接対決してしまおう。それはどうしても避けるべきだ」

徳之島でも18日、移設反対の大集会が開かれ、鳩山首相は「四面楚歌」の状態だ。だが日増しに辞任要求の圧力が強まるなか、意外にも沖縄では「5月

末決着」が実現しない場合、「即辞任」を求める声は少ない。「戦後65年、普天間返還が決まって13年。沖縄は待ち続けた。もし首相が沖縄に本気で寄り添い、負担軽減でどことんがらんと分かれば、沖縄は待つ。それが今の沖縄の民意だろう」と、上里賢一琉球大名誉教授は指摘する。

日本総研の寺島実郎会長は今月、訪米直前の鳩山首相から電話を受けた。30分の会話で、寺島氏は「腹をくくって対米交渉に向き合う」よう助言した。

「ジグソーパズルの小片を震える指先で握り、はめ込み先を探すようなやり方では、基地問題は解決しない。米軍基地の管理権を日本に移し、東アジアに空白を生み出すに基地縮小に踏み出すなど、10年単位の取り組みが必要だ。本気で対米交渉をし、日米に真の信頼関係を築く。その決意を示せるかどうか。それが本当の勝負どころではないか」